

## 島民会議総括

### 1. 生徒の探究活動について

昨年度の反省から、探究のテーマとグループ決めについては、最初から最後まで興味のあるテーマを探究させ、フィールドワークの回数も昨年度より、多く行った。その結果、生徒は興味をもって最後まで探究活動をすることができた。また、調査する段階で多くの壁にぶつかったが、四苦八苦しながらも乗り越え、最終的にはテーマについてしっかり向き合い、内容を深める探究活動ができた。

探究活動の課題としては、生徒の意見、島民会議参加者の意見からもあったが、協議する回数が少なく、議論する力をさらに伸ばした方がよい。次年度については、小規模で地域の方と協議する機会を設ける必要がある。また、毎年の活動をデータベース化し、先輩から後輩への引継ぎ資料を行う必要もある。

### 2. 島民会議の運営について

運営に関しては、昨年度の経験が生き、比較的スムーズに当日を迎えることができた。また、受付、全体会の司会等、昨年度は教員が主として担当していたものが、生徒が担当し、島民会議全体を生徒によって運営することができた。次年度は、実行委員会等がさらに中心になり、より生徒中心の運営にできるとよい。また、教員が行っていた運営全体に関しても、地域協働学習実施支援員など、地域に段階的に移行する必要がある。

島民会議の内容の時間配分について、生徒との協議の時間が少ない（昨年度に比べて、今年度は20分程度増であったが）という意見が多くあった。全体会①についての通信機器の問題（音声の質など）もあることから、全体会①を縮小し、分科会の時間を増やすように次年度は実施したい。全体会②についても、1分程度の分科会報告では、分科会の概要は話すことができないため、検討したい。

島民会議の参加者については、昨年度の一般参加者は、興味のある方が多かったが、今年度は町議、PTA、大学教授、その他八丈町で様々な活動の中心になっている方などが参加した。このことから、八丈島、その他の地域について、島民会議が浸透しつつあり、「高校生が地域を変える」という1つの目標に大きく前進していると考えられる。



# 島民会議

いつも心に八丈を

島を憂い

変えてゆく

## 参加者募集！！

日時 12月21日（水）午前9時30分から午後0時20分まで  
参加申し込み（締切 11月30日（水））

QRコードまたは八丈高校地域協働事務局  
(2-1182)まで参加のご連絡をお願いします。  
※応募者多数の場合は、校内で検討の上、決定  
いたします。



## V. 八丈学Ⅲ

1. 令和4年度『八文学Ⅲ』年間授業計画

|     |        | 概要                 | 詳細   |
|-----|--------|--------------------|--|
| 4月  | 15日    | 合同授業               | ・「八文学Ⅰ・Ⅱ」の取組を発表し、八文学の授業の概要について知る。              |
| 5月  | 6日     | 個人探究（調査）           | ・個人探究のテーマを設定し、調査を行う。担当教員の決定。                   |
|     | 13日    | 個人探究（調査）           |  |
|     | 27日    | 個人探究（調査）           |  |
| 6月  | 17日    | 個人探究（調査・グループ内発表）   | ・担当教員のもと、個人探究に取り組む。グループによっては発表活動を行う。           |
|     | 18日    | 個人探究（調査・グループ内発表）   |  |
| 7月  | 15日    | 中間発表会リハーサル         | ・普通科の八文学、併合科の課題研究の中間発表会を行い、相互の研究内容を知る。         |
|     | 19日    | 普通科・併合科中間発表会       |  |
| 8月  | 課題     | 個人探究（レポート作成）       |  |
| 9月  | 9日     | 個人探究（レポート作成）       | ・八高祭に提示するレポートの作成。展示発表                          |
|     | 14日    | 八高祭準備              |  |
|     | 17日    | 八高祭                |  |
|     | 18日    | 個人探究（プレゼンテーションの作成） | ・個人探究成果発表会にむけて、プレゼンテーションの作成                    |
| 10月 | 7日     | プレ島民会議参加           | ・プレ島民会議において、2年生の提案についてアドバイスをする。                |
|     | 21日    | 個人探究（プレゼンテーションの作成） | ・個人探究成果発表会にむけて、プレゼンテーションの作成。終了した人から島民会議の補助に入る。 |
|     | 28日    | 個人探究（プレゼンテーションの作成） |  |
| 11月 | 4日     | 個人探究（プレゼンテーションの作成） | ・個人探究の成果を生徒・保護者・地域に発                           |
|     | 5日     | 個人探究（プレゼンテーションの作成） |  |
|     | 18日    | 個人探究（プレゼンテーションの作成） |  |
|     | 25日    | 個人探究成果発表会          |  |
| 12月 | 9日     | 島民会議補助             | ・2学年主体の島民会議について、2年生にアドバイスする。                   |
|     | 16日    | 島民会議補助             |  |
|     | 21日    | 『島民会議』             |  |
| 1月  | 13日    | 要探究成紀              | ・探究紀要の作成をA4版1枚で作成する。                           |
|     | 20日    | 要探究成紀              |  |
|     | 27日    | 要探究成紀              |  |
| 2月  | 自宅学習期間 |                    |  |
| 3月  | 自宅学習期間 |                    |  |



## 2. 個人研究

【実施時期】第2学年3学期（1月～3月）・第3学年

【学習目標】①探究活動を応用し、研究を深める。  
②自分自身と向き合い、進路を進める。

八丈学Ⅰ・Ⅱを経験し、「島民会議」を経た3学年は『自分自身を知る』、『探究の技能を身に付ける』という内容に関しては、学年までに育成されていた。3学年になり、自己の将来に向けての進路活動が現実になる時期に、2学年までに培ってきた探究方法を応用して進路を進めることにより、八丈島と自己に対して向き合い、社会に参画することを考えることにより、八丈島の将来を支える人材を育むことが目標である。

【学習内容】

個人研究のテーマに関する分野ごとに、担当教員を設置したゼミ形式で実施した。それぞれの教員の専門性を生かして、理系、文系、看護医療系、保育系進学希望、その他の分野のゼミで構成した。授業内容は、毎週打合せを行い、生徒の探究進捗の状況把握と、指導・助言を実施することを重点とした。また、1学期末には中間報告や発表会を実施、2学期には個人探究の研究報告書の作成などを行った。

【進行について】

本年度の3学年は、3年間地域協働活動を実施した第1期生であり、教員とともに八丈学を開発、牽引していた生徒である。はじめての取り組みであっても、堂々と自分のやりたいことを主張できる態度が育っている。受験校の変更等の多少の変更はあったが、普段の授業で自分と向き合うことを行っているため、進路が途中で大きく変更になる生徒はいなかった。それに合わせて自分の学習を調整し、課題の変更を行い、ゼミの移動をするなど、積極的に授業に関わっていた。先生方も柔軟に対応し、積極的に生徒に進言することで結果的に生徒の進路指導を支えてくれていた。今年度より担任が八丈学に入ることになったが、ぜひ来年度も担任の教員に担当をしてほしいと考えている。また、進路に係るので、八丈学Ⅲは生徒を良く知る教員や進路指導の教員が担当となるのが望ましいと考える。

| 担当者   | 探究課題                | 担当者 | 探究課題                 |
|-------|---------------------|-----|----------------------|
| 風間・前川 | ギターから考える SDGs       | 鈴木  | 島の出産について             |
| 風間・前川 | 蛍水路の調査と外来種の活用       | 鈴木  | 八丈島にふさわしい幼児施設        |
| 風間・前川 | 合宿                  | 鈴木  | 保育士不足                |
| 風間・前川 | 八丈の海（魚）             | 鈴木  | 島での出産                |
| 風間・前川 | 飲食店の HP             | 鈴木  | 赤ちゃんポストについて          |
| 風間・前川 | 塩害対策                | 鈴木  | 0脚改善                 |
| 風間・前川 | 早押しゲームを電子回路から       | 高岡  | 八丈の車の交通事故を減らす        |
| 風間・前川 | 音波による消火について         | 高岡  | 島たくあんソーセージの開発        |
| 風間・前川 | 漂着船の漂流ルート予測の探求      | 高岡  | 児童養護施設               |
| 風間・前川 | ペットボトルハイブリッドロケット    | 高岡  | デザインのインスピレーション       |
| 風間・前川 | 八丈島の海               | 高岡  | 島たくあんソーセージ           |
| 風間・前川 | 麻雀における教育と健康の可能性について | 高岡  | 八丈島におけるスポーツツーリズムの可能性 |
| 風間・前川 | 蛍水路の調査と外来種の活用       | 高岡  | バブル経済                |
| 風間・前川 | 雨の中に含まれるプラスチックとその影響 | 杉山  | 海のためにできること           |
| 加藤    | アルバイトのハラスメント        | 杉山  | 八丈方言を継承していくために       |
| 加藤    | 黄八丈のブランディング計画       | 杉山  | 八丈島の異文化理解を深める        |
| 加藤    | アルバイトのハラスメント        | 杉山  | 島民会議について             |
| 加藤    | 猫の保護活動              | 杉山  | 八丈島のマップ              |
| 加藤    | ヘアケアについて            | 杉山  | 海のためにできること           |
| 加藤    | 地域協働プロジェクト          | 杉山  | 環境ラベル                |

### 3. 八文学Ⅲ補足資料

#### 探究タイトル

#### 島たくあんソーセージに関する探究

##### ○探求の背景（経緯）

担当の高岡先生から

島たくあんソーセージの製作を進められたことをきっかけに、島の新しい商品開発、島の活性化に繋がって欲しいという思いでテーマを立てました。

##### ◎探究方法

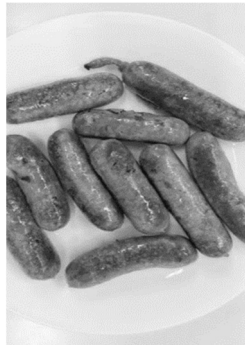
秋田県の名物「いぶりがっこソーセージ」を参考にし、千両の島たくあんと大竜ファームのうみかぜ椎茸を使って島たくあんソーセージの製造をしました。



##### ◎探究結果

##### ○1回目（豚ひき肉牛ひき肉）

- ・肉がボソボソしていて、ソーセージ感が全くない。
- ・肉の味が強くたくあん、海風しいたけの味がしない。
- ・皮のパリッと感がない。
- ・茹でた時に油が流れ出てしまった。



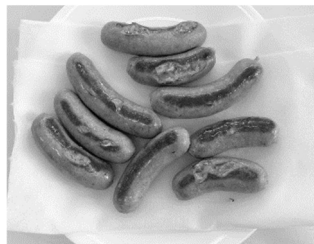
##### ○2回目（豚ひき肉・豚バラ）

- ・たくあんと椎茸を大きく切りすぎて味の主張が強すぎた。
- ・肉がボソボソしていた



##### ○3回目（豚挽き肉）【成功】

- ・ソーセージのパリッとした
- ・たくあんと島等の量がちょうどよかった
- ・肉汁があった



##### ○試食してもらった感想

- ・食感がいい
- ・たくあんの味がしっかりする
- ・皮のパリッと感があった
- ・見た目がいい

##### ◎探究の考察

##### ○成功のために行った解決策

- ・ミキサーで滑らかになるまで混ぜる
- ・余計なものを入れない
- ・氷を沢山入れて肉汁を溜める

特産品を作るには何回も繰り返しチャレンジしなくてはいけないこと、アイデアやお金が必要だということがよくわかりました。

島には多くの特産物があるから、今回島たくあんソーセージを作ったように、島の特産品をもっと売り出せば特産物をより観光の方や島外の方に知ってもらえると思いました。



##### ◎探究発表を終えて

2年の時から高岡先生がずっと言っていた島たくあんソーセージを実現できてよかったです。もっと早くから製造して、飲食店での提供、お土産として空港で売ることの交渉まで行けたらよかったなと思いました。面白いテーマで研究できて楽しかったです。

## 探究タイトル

### 八丈島のマップを作る

#### ● 気づく

##### 1. 課題設定

近年では国際化が積極的に進められている。よって情報は誰にでも伝わるように示す必要がある。そのため国際化に伴ってデザインについて考えることは必要不可欠なのではないかと考えた。以下、どのようなデザインが適切に情報を伝え、わかりやすいのか調査した。また、それを用いて八丈島の地図の制作を計画した。

##### 2. 仮説

私は直感的にわかるデザインが人を惹きつけるのでは無いかと考えた。また東京オリンピック・パラリンピックでよく目にした「ピクトグラム」から着想を得て、文字を使わず形で表すような単純化したデザインが適しているのではないかと考えた。

#### ● 深める

##### 3. 目的



誰にでも伝わるデザインを考える上で、興味を引きつける、わかりやすい、見やすいといった3つの観点が大切である。3つの共通

部分に加え、なんの情報を伝えるかでもデザインは変わってくるため、それを加味し考える必要がある。そのため、今回は八丈島の地図を作ることに限定し、調査を行った。

##### 4. 調査

以下の2点で調査を行った。

###### ○今ある八丈のマップを比較

「八丈観光マップ」は分類ごとに表裏に地図が分けられている、イラストで書かれているといった特徴があった。「八丈観光地図」

は地域で色分けされている、写真掲載という特徴

がある。「Hachijo island guide map」にはひとつのトピックで1冊になっている、サイズが小さいという特徴があった。

###### ○今ある地図に対しての意見を聞く

観光業を行っている島民の方にお話を伺った。情報を詰め込みすぎると文字が小さく見づらい、持ち運びしやすく小さくすると情報が少なくなる、何冊にも分けることで持ち運びづらいが、必要な情報だけ選ぶことが出来る、デカルト座標を読む人が少ないといった意見を頂いた。

#### ● 伝える

##### 5. 結果

調査結果は以下の4つであった。

- ① シンプルなデザイン
- ② 情報が多い、なおかつ文字が見やすく持ち運びやすいサイズ感
- ③ ひつような情報だけ欲しい
- ④ データ化は賛否両論(持ち運びやすいが、使いづらさを感じる方もいる)

##### 6. 実践

調査結果を踏まえたマップにするために「レイヤーマップ」というもの考えた。「レイヤーマップ」とは、ジャンルごとに透ける地図を作り、それを基盤の地図に重ねて、必要な情報だけを読み取れるマップである。

##### 7. 結論

今回は制作できなかったため、この探究を活かし、今後試作品を作りたい。



## 探究タイトル

### 環境ラベルについて

#### ◎探究の背景（経緯）（内容）

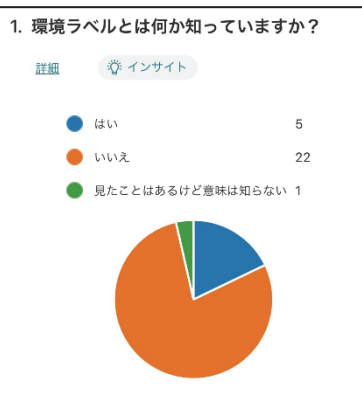
私は国際教養に興味をもっており、SDGs の 15 番に挙げられている「陸の豊かさを守ろう」について、調べることにした。その際に消費者の環境に与える影響の大きさに着目し、環境ラベルについて深く追究することとした。

#### ◎探究方法

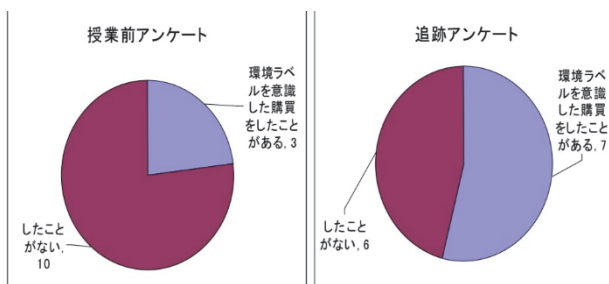
- ① アンケートによる認知度調査
- ② 文献調査（書籍・インターネット）
- ③ 統計調査の引用

#### ◎探究結果

① アンケートによる認知度調査では、学年の生徒を対象とし、環境ラベル自体の認知度、主たる環境ラベルの認知度等について調査を行った。その結果が図 1 となっており、多くの生徒は認知できていなかった。



②そこで認知を行うことで、どのように行動に変化が出るかを文献で調査した。認知による行動の変化の結果、図 2 となっており、認知後には大きな変化がみられた。



#### ◎探究の考察

##### ①環境ラベルが影響を与える方法について

- 1 有効性評価：個人の消費者が汚染対策において効果的であると信じる程度を指している。
- 2 社会的規範（同調圧力）：道徳的・社会的責任感がゆる〜くエコ購買意図にプラスの影響をあたらせる（一部証明）
- 3 人間自然関係思考：人間は自然の一部であり、自然を支配すべきではない！という考え方  
→エコ購買意図にプラスの影響を与える（一部証明）

以上の 3 点を利用して広めるには、有効性評価→日本政府が認定しているラベルの存在（企業独自で認定しているものなどもある）を利用することが考えられる。

【実例】BLAUER ENGEL ドイツで誕生した世界初の環境ラベルで、ドイツ政府が認定した特定の製品にのみ、表示できる。実際にドイツでは 90% の国民が意識しており、消費者の 23% が意識して買っている。

##### 【日本政府認定の環境ラベル】



古紙パルプ配合率 100% 再生紙を使用



グリーンマーク

#### ◎探究発表を終えて

受験勉強と両立して行うのは大変だったが、調べることで日本やドイツ、環境に対する考え方を学ぶことができた。

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/ilcaj/2008/0/2008\\_0\\_184/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ilcaj/2008/0/2008_0_184/_pdf/-char/ja)



## 探究タイトル

### 雨の中のプラスチック

#### ◎探究の背景（経緯）

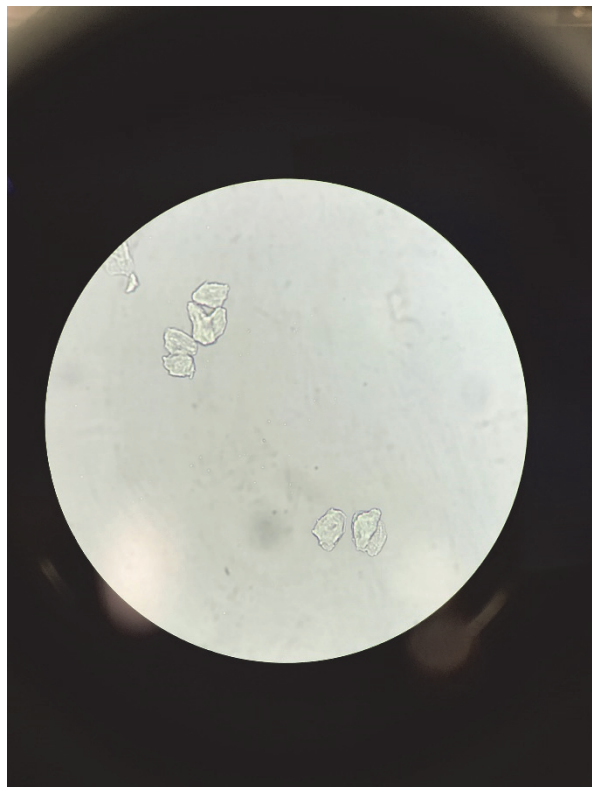
ふとニュース記事を見た時、現在の日本には空気中にもプラスチックが含まれている、というものを見つけた。私はそのことに衝撃を受け、また、あることを考えた。八丈島は風や波が強く、プラスチックが打ち上げられやすい環境にあるのではないかと。そこから、打ち上げられたプラスチックが風に乗り、核となって雨が形成されると考えた。そこから、雨に含まれるプラスチックについて調査しようと考えた。

#### ◎探究方法

実際に雨を採集し、そこに含まれるプラスチックを顕微鏡によって調査した。

#### ◎探究結果

実際に採集した雨の中から極小のプラスチック片が確認できた。



#### ◎探究の考察

この探究活動の結果から、実際に雨の中にプラスチックが含まれる可能性はあると考えられる。しかしながら、私の行った探求の方法では、試行回数や正確性が非常に低いものとなっているため、これだけで雨にプラスチックが含まれるという事柄は断定することはできない。しかし実際に探究活動を行う中で、現在の環境問題についてなどを考えることができた。

また、この探求を行った後、私は環境にプラスチックが混ざってしまうことによる悪影響について調べた。そこでは、生き物の体に対する悪影響や、人間の体にプラスチックが入ってしまった時の悪影響について知ることができた。そこでは、人間がひと月あたりクレジットカード一枚分のプラスチックを食べているということや、プラスチックが人間のプラスチックが人間の血管の中から見つかったというようなことを知り、非常に驚かされた。

#### ◎探究発表を終えて

私たちは環境のために働くべきだ。といった話を近年になってよく聞くようになったと思う。私もその意見には賛成ではあるものの、その理由や実際に何が起きているのかに対する造形は非常に浅いものであったと思う。せいぜい海ゴミなどの拡大が問題になっている程度だ。しかし今回探究活動を通じて、様々のことを学び、環境やプラスチックについて考えることができた。この活動による経験は今後の人生での選択に大いにかかわることだと思う。もし環境などに興味を持っている方がこれを読んでいるのならば、ぜひこの探求を引き継いで深めていただきたいと思う。

結びに、この研究活動に協力していただいた教員の皆様に、深く感謝を申し上げます。

## VI. 学校設定教科・科目

## 1. 郷土文化（郷土芸術・郷土文化実習・海洋文化）

|              |   |
|--------------|---|
| 教科・科目名       | 郷土文化・「郷土芸術」「海洋文化実習」「郷土文化実習」   |
| 単位数          | いずれも2単位   |
| 対象学科・学年      | 普通・併合科・3学年※郷土芸術については普通科2学年も選択可  |
| 必履修・選択の別     | 選択  |
| 設定する教科・科目の内容 | <p>学校設定教科「郷土文化」では、八丈島の自然や文化を知るために「郷土芸術」「海洋文化実習」「郷土文化実習」を設置している。</p> <p>「郷土芸術」</p> <p>八丈島には多くの芸能があるが、その中心となるのが八丈太鼓である。人が集まれば太鼓を演奏するぐらい島民にとっては身近な物であり、八丈太鼓を習っている生徒も少なくない。</p> <p>本授業では八丈太鼓の文化的な歴史や、島内における価値を考えるだけではなく、実際に八丈太鼓を演奏することで文化の継承を行う物である。9月には文化祭で授業発表、2月の芸術発表会の舞台上で発表して広く島民にも聞いてもらっている。</p> <p>「海洋文化実習」</p> <p>海に囲まれた島ならではの学習として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキューバダイビングの学科講習と実技指導。</li> <li>・八丈島の海岸生物の採集・観察。</li> <li>・ビーチコーミング（漂着物調査等）</li> </ul> <p>を学習する。</p> <p>「郷土文化実習」</p> <p>八丈島の名前の由来となったとされる黄八丈は、繭を製糸にする工程こそ行っていないものの、黄色、赤、黒の染めから機織りまでを島内で全て行っている。特に、草木染めや泥染めはとても大変な工程である。本授業では、黄八丈の伝統的価値やその作り方の工程を学び、校内にある機織りを使って実際に黄八丈を織ることで、その難しさとおもしろさを体験的に学習し、伝統継承の一端とする。</p> |
| その他特記事項      | これらの科目はいずれも地域の外部講師を招いて、体験的に行う学習活動になっている。  |

## (1) 郷土芸術



実技指導の様子①



実技指導の様子②



実技指導の様子③



実技前の様子



発表の様子①



発表の様子②

### 【成果と課題】

生徒に対して、「なぜ伝統文化を学ぶのか」という問いかけからはじめ、八丈太鼓の演奏技術だけでなく、伝統文化・伝統芸能への理解を高めることができた。また、特別専門講師の先生に、直接、八丈島の歴史や方言についても教えてもらったことで、島の文化を違った角度から学ぶことができた。

今後については、今年度はコロナ禍で外部の方に発表する機会は限られたが、文化継承の担い手として、島内での祭りなど広く演奏の場に参加するようになってほしい。履修した生徒の満足感が高いが、履修人数が減少しているのが課題であり、学校として科目選択の指導をどのように行っていくかを検討していく必要がある。



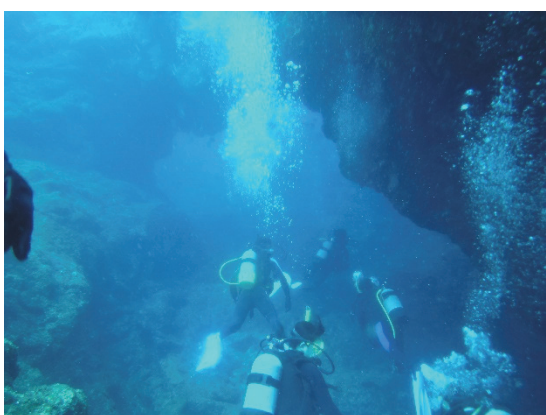
## (2) 海洋文化実習



シュノーケル講習の様子



海洋実習の様子①



海洋実習の様子②



機材の安全確認



陸上での講義



プール実習の様子

### 【成果と課題】

体験を通して、八丈島の自然豊かな海について学ぶことで地域の価値の再認識につながった。また、ダイビングを通して、初めて見る海の姿に新たな価値の発見にもつながった。

地域の魅力を認識することで「守りたい」、「伝えたい」と考えるようになった。今後は「守る」、「伝える」を実際に行動に移すことができるよう指導していきたい。



### (3) 郷土文化実習



授業の様子



反物制作の様子①



糸制作の様子



染め体験の様子



織物製作の様子



反物制作の様子②

#### 【成果と課題】

大きく分けて「染め」と「織り」の二つを学習することができた。「染め」では、八丈島の植物を使って染める「草木染め」のこと。「染め」の過程で用いられる媒染剤などについての知識を得ながら、体験的な学習ができた。「織り」については、ひたすら織る中で黄八丈の価値に気付くことができた。しかし、これらの学習をより体系的な形にする必要がある。

## 2. 保健体育総合

|              |  |
|--------------|--|
| 教科・科目名       | 保健体育・保健体育総合  |
| 単位数          | 3単位  |
| 対象学科・学年      | 普通科・3学年  |
| 必履修・選択の別     | 選択   |
| 設定する教科・科目の内容 | <p>体育研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究テーマに対する知識を深める。</li> <li>・習得した知識を小論文形式で原稿用紙にまとめる。</li> <li>・各自が他者も理解しやすい手段を学び、実際の動きを通して伝達する。</li> <li>・学習指導案を作成し授業実践を行う。</li> </ul> <p>保健研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八丈島での健康及び環境問題について調査し、問題解決の糸口を探す。</li> <li>・深まった知識を、効果的な方法で発表し、より多くの人に自分の考えを伝える。</li> <li>・八丈島で特に人々の健康を現在脅かす、又は今後脅かす可能性のある事柄について調査</li> <li>・自分が興味を持った保健分野に関する事項について八丈島の現状と照らし合わせ調査、考察する。</li> <li>・発表用の資料のスライドを作成する。</li> <li>・3学年全生徒に対し発表を行う。</li> </ul>  |
| その他<br>特記事項  | <p>平成 29 年度履修人数 5 名。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な研究テーマ「八丈島の自然災害について」「水海山（八丈島の水源地）の環境問題について」「八丈島の高齢化と人口減少について」「八丈島の廃棄物問題について」</li> </ul> <p>平成 30 年度履修人数 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な研究テーマ「八丈島の地震について」「八丈島の高齢化について」「海の中の危険生物について」</li> </ul> <p>平成 31 年度履修人数 2 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な研究テーマ「八丈島の紫外線問題について」「八丈島のごみ処理問題について」</li> </ul> <p>令和 2 年度履修人数 4 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な研究テーマ「八丈島の健康問題について」「八丈島のスポーツ振興について」「八丈島の熱中症対策について」「八丈島の観光資源について」</li> </ul> <p>平成 3 年度履修人数 3 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な研究テーマ「八丈島のゴミ問題について」「八丈島の災害について」「八丈島の紫外線問題について」</li> </ul> <p>令和 4 年度履修人数 4 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な研究テーマ「八丈島の防災と災害について」「八丈島の人口減少問題について」「八丈島の軽石問題について」「八丈島のスポーツ実施の現状と課題について」</li> </ul> |



## 令和4年度の研究テーマ

### 【体育分野】

「バスケットボールにおけるスリーポイントシュート技術」

「サッカーにおけるパスとトラップの極意」

「アルティメットにおけるスロー技術」

「バドミントンにおける質のいいスマッシュを打つために」

### 【保健分野】

「八丈島の防災と災害について」「八丈島の人口減少問題について」

「八丈島の軽石問題について」「八丈島のスポーツ実施の現状と課題について」



体育分野の指導実践の様子



保健分野の研究発表の様子

### 【成果】

- 運動の技術伝達において実際に自分が指導をする立場となり実践することで、指導の難しさを実感するとともに、段階的、個別的な学習方法の重要性について理解することができた。
- リハーサルを行い、グループで問題点を指摘しあうことで確実に指導技術を高めていくことができた。目標とする技術を受講者が身に付けることができた時に、指導者としての喜びや達成感を味わうことができた。
- 八丈島について保健分野をテーマに探究的な学習を進めて行くことで、島の現状や健康課題を実感するとともに、地域との協働でその対応策を考えていく必要性を理解することができた。
- 他者との話し合い、発表などのプロセスを通して、他の知識との関連を考え、理解を深めることができた。

### 【課題】

- 生徒の取り組む課題について、教員も精通して研究すること。
- 安全への配慮や段階的学習についての助言を細かく行うこと。
- 情報収集にあたり、地域との連携を視野に入れ、関連施設の訪問を行うこと。
- 研究内容が実際生活に即し、島内で実践できる内容となるよう、指導の方向付けを行うこと。
- 調査した内容の発表にとどまらないよう、考察した内容を重視し充実させること。



### 3. 教養の社会

|              |   |
|--------------|---|
| 教科・科目名       | 公民・教養の社会  |
| 単位数          | 2単位   |
| 対象学科・学年      | 普通科・3学年   |
| 必履修・選択の別     | 選択  |
| 設定する教科・科目の内容 | <p>学校設定科目「教養の社会」では、自分の進路に関する課題や八丈島に関する課題を解決するために、教養を幅広く身に付けさせるとともに、発表の機会を多く設けることでプレゼンテーション能力を高め、自らの考えを表現し、主張できるように育成することを目標としている。</p> <p>1学期は、自分の進路に関する課題について調べ、発表し、レポートにまとめた。また、地理歴史の教養についての講義を行った。</p> <p>2学期は、自分の進路のみにかかわらず、自分の興味関心に基づいた調べ学習を行い、発表し、レポートにまとめた。生徒によっては地域との関わりについて調べた生徒もいる。また、政治経済の教養についての講義を行った。</p> <p>この科目においては探究活動をきっかけに、自発的により深い学びとなることを期待できる科目である。</p> |
| その他<br>特記事項  | <p>&lt;履修人数&gt;</p> <p>令和2年度…26名</p> <p>令和3年度…6名</p> <p>令和4年度…20名</p> <p>&lt;生徒が掲げた発表内容&gt;</p> <p>令和4年度は、「八丈島の虫について」、「韓国の文化」、「空港の活用」などを生徒が自分でテーマ設定し、発表した。</p>  |

#### 令和4年度の学習内容

##### 【1学期に行った活動】

自分の進路に関する課題について調べ、発表し、レポートにまとめた。発表時は発表に対して、聞いている人全員からコメントをもらい、レポート作成に反映させた。地理歴史の教養についての講義を行った。

##### 【2学期に行った活動】

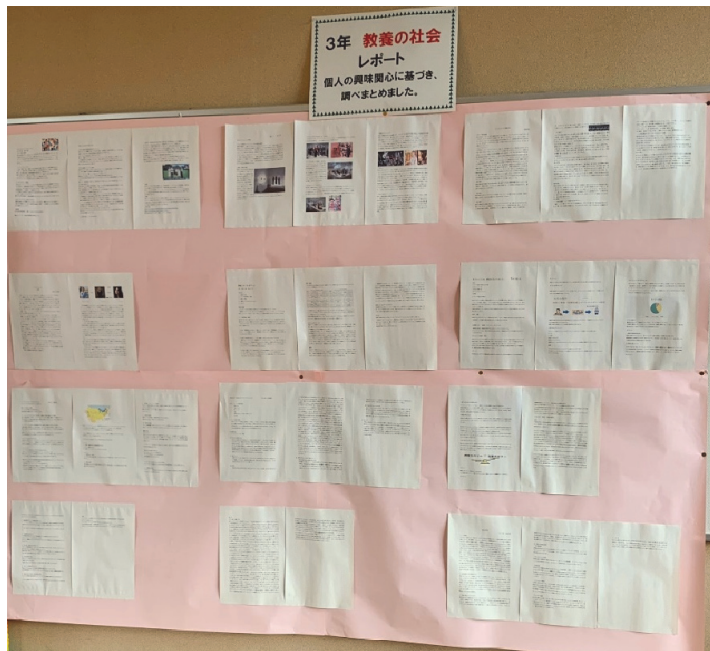
自分の進路のみにかかわらず、自分の興味関心に基づいた調べ学習、発表し、レポートにまとめた。1学期同様、発表時は発表に対して、聞いている人全員からコメントをもらい、レポート作成に反映させた。政治経済の教養についての講義を行った。

## 【成果と課題】

自分で設定したテーマに対して調査を行い、発表することで、表現力をつけるだけでなく、異なる立場の意見を知ることができた。このことから、様々な角度から、世の中の事象を考察する視点を養うことができた。八文学Ⅲの個人探究活動と連動しながら、学習することもできた。

レポート作成については発表を行ったうえで、コメントをもらい、それをふまえたレポートを書くことができた。2学期も同様の活動を行うことで、さらに深みのある学習活動を展開することができると考えている。

課題としては、受講者数が多いこともあり、発表に時間がかかり、レポート作成のための時間が授業内で取れず、生徒個人の課題として残ってしまっている。昨今では Microsoft Teams の機能を使って、生徒のレポートを教員と共有しながら、見ることも可能になっているので、そういった機能を生かしながら、生徒に個別的な指導を行っていく。



レポートの展示



発表の様子